

広報委員会委員に就任して

(株) 復建技術コンサルタント 仙台支店 営業課 課長
菅原 大輔



<はじめに>

平成 27 年 5 月に、広報委員に就任しました。担当の渉外部会では真坂部会長をサポートできるように、協会のことや業界のことを勉強し、協会の皆様のお役に立てるように尽力する所存ですので宜しくお願い致します。

<自己紹介>

出身は、岩手県一関市大東町です。一関市のずっと東側で、ちょっと行けば陸前高田市になります。

地元の名物といえば、「天下の奇祭 大東大原水かけ祭り」です。350 年続く伝統ある祭りで、極寒の 2 月に裸の男衆が、キンキンに冷えた水を掛けられながら街道を疾走します。私も厄除けとして厄年には参加しています。地元以外の方も参加できるお祭りですので、県内外から大勢の方がやってきます。



画像元：矢びつ温泉 瑞泉閣 微笑日記

魅力は、何ととっても迫力ある水しぶきです。街道に多数用意された水槽から、見物人が容赦なく走ってくる男衆めがけて冷水を掛けます。男衆は、次々に飛んでくる水を全身で受け止め厄を落とします。全身から湯気を上げながら「ワッショイ、ワッショイ」と声を上げて疾走する

光景は絵になります。物凄く寒いのですがリピーターの参加者が多いのは、「裸 + 極寒 + 冷水」という危機的状況から脳内でアドレナリンとドーパミンが大量分泌され、興奮・高揚感があるからだと思っています。興味のある方は、ぜひご参加下さい。

ちなみに、実家はそば屋を営んでおりました。私が跡を継がなかったので閉店しましたが、発注者・業界の皆様にはずいぶんご贔屓いただき有難うございました。



画像元：食べログ

地元には高校までおまして、進学のため仙台へ出てきました。

大学卒業後、就職は縁あって(株)復建技術コンサルタントに就きました。

当時は建設コンサルタントがどのような職種かあまり理解しておらず、また親戚に土木関係者がいなかったため情報もなく、就職に不安もありましたが、公共事業での受注が主体と聞いて直感的に「堅い商売か?」と思ったことと、営業の先輩方の仙台訛りの面白トークと人柄で入社を決めました。

<入社から>

入社は平成 9 年でした。もう 18 年も経ったのかと改めて感じます。

今は部下も増えて教育・指導する立場になりました。自分の新入社員時代を重ね合わせてアドバイスをしていますが、言葉と気持ちを伝えることの難しさを痛感しています。

文系出身で営業職に就いたので、初めは土木のことが全く分かりませんでした。「門前の小僧習わぬ経を読む」とはよく言ったもので、いつの間にか多少分かるようになっていました。

これまでは取引のあった発注先を中心に営業していましたが、震災後は新規業務や新規顧客への営業も行うことが多くなり、これまでの知識・経験のほかに学ぶべきことも増えました。

<趣味>

趣味はカメラです。

コンパクトカメラで子どもの成長記録を撮影していましたが、ある時に姉の一眼レフカメラを借りてから、ハマりました。

私が好きな写真は、「ダカフェ日記」というブログに掲載されている写真です。森友治さんという写真家のブログです。このブログは家族の日常を記録したもので、「穏やかな家族」の空気感が写真で見事に切り取られており、私もこのような家族の写真を撮り貯めたいと数年奮起していますが、カメラを向けると子供たちは逃げたり、変なポーズをしたり、こちらの思うようには行きません。

撮るのも好きですが、古いフィルムカメラを集めるのも好きです。家族にはガラクタ収集と思われる節があり理解されません。



昔のカメラは、当時の給料で数ヶ月分もしたものもあり、とても高価なものだったようです。現在は電子式プラスチック製カメラが多く、故障すれば買い換えたほうが安いです。古いカメラは機械式で部品交換・修理して使用できるようになっていますので、大切に扱えば何十年も使えます。一生ものとなれば愛着も湧くでしょうから、高いのも納得です。

現在はカメラや時計、計算機などは電子式が主流ですが、昔は機械式でした。小さなボディの中に、計算通りに動く機械仕掛けを考え、それを作り上げる職人の設計技術・製造技術に驚くとともに感心し、つい集めてしまうのです。

<最後に>

わが社は、平成28年で創立70周年を迎えます。会社の礎を築いた諸先輩方に感謝するとともに、自分もそのスピリッツを受け継ぎ、また次世代へと伝えていかなければなりません。

担い手不足と言われる業界ですが、現在の技術にとどまることなく、イノベーションの追求こそが生き残りのカギだと思います。